

揖斐川町の夏は、今年も例年に負けず劣らず暑い日が続き、最高気温35℃以上の猛暑日は、7月末から8月にかけて13日を数えました。越美山系砂防事務所では、大学の夏休み期間でもあるこの時期に、学生に砂防に関する学習をしていただくため、キャンプ砂防を実施しました。

### 大学生が砂防をまるっと体験 ～キャンプ砂防 in 越美～

砂防に関する専攻をしている大学生等を対象として、崩壊地や砂防工事の現場を体験していただき、砂防への理解を深めていただくため「キャンプ砂防 in 越美」を毎年開催しています。今年は2名(京都府立大学 松本さん、佐野さん)の参加があり、8月24日から28日まで開催しました。期間中は、砂防堰堤や土石流流下痕の見学に加え、猛禽類調査体験、丁張り設置などの工事現場体験をし、また揖斐川町長への訪問では地元の取組み等についてお話いただきました。

大学の授業で学んだ知識に、現地での体験が加わり、卒業後は未来を背負う人材になる事を期待しています。



急斜面を登り土石流流下痕へ

### 砂防施設の安全をチェック

砂防施設の中には良好な景観を有する場もあり、野外活動の場として利用したりする方などが訪れるため、定期的に施設の安全利用点検を行っています。9月4日には越美山系砂防ボランティア協会の方々と協働で点検を実施しました。協会員の中には、以前に当事務所で勤務していた方もいらっしゃいます。施設の建設当時の様子を知る方もおり、当時からの地形の変化など、場所によっては職員と異なる視点で点検をしていただきました。



堰堤の暗渠に入り  
土砂の堆積状況を確認



溪流保全のため整備した  
石段の亀裂も確認

### 河川出張所と合同で現場の安全確認

当事務所では、事務所発注の工事等における、労働災害の防止及び安全な工事等の推進のために、事務所職員及び工事等受注業者の技術者により、安全協議会を結成しています。協議会では、現場安全協議会を毎月1回開催し、各現場の安全パトロールを実施し、事故等の防止に向けて不安全作業等への是正事項や、他の工事にも参考となる推奨事項などを抽出し、自らが施工する現場に生かす活動をしています。

8月21日に行われた8月期の安全パトロールは、近隣の木曾川上流河川事務所根尾川出張所との合同パトロールとして実施しました。今後も、工事現場での事故ゼロを目標に、様々な活動に取り組んでいきます。



安全パトロールの様子



工事現場での丁張り作業を  
実際に体験



揖斐川町長にも  
時間をいただき訪問

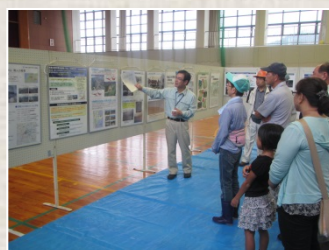
### 地元の防災訓練で砂防をPR

8月は当事務所管内の揖斐川町(23日)と本巢市(30日)で、防災訓練が実施され、当事務所からも職員が参加して両訓練会場にブースを設け、パネル展示を行いました。

昨年に発生した長野県南木曾町の土石流及び御嶽山噴火、また明治期の濃尾地震等、過去に発生した土砂災害に加え、TEC-FORCE活動に関する展示を行い、砂防事業へのご理解と、防災に対する意識高揚をお願いしました。



揖斐川町での防災訓練会場に  
展示(提供:揖斐川町)



本巢市の防災訓練にて  
展示内容を来場者へ説明



クマタカ通信をメール配信します。配信希望の方は下記宛に「配信希望」とメールを送信して下さい。  
また、クマタカ通信の感想やご意見もお待ちしています。

発行 国土交通省中部地方整備局  
越美山系砂防事務所 揖斐川砂防出張所  
〒501-0619 岐阜県揖斐郡揖斐川町三輪2303-3  
Tel: 0585-22-3526 Fax: 0585-22-6626  
E-mail: [ibigawasabo@cbr.mlit.go.jp](mailto:ibigawasabo@cbr.mlit.go.jp)

## 昭和40年(1965)災害／『奥越豪雨』⑪

## 真名川筋

## 福井県側の西谷村は廃村の道をたどる ②

雨は14日午後7時頃から豪雨となり、9時には鎌谷川に架かる小さいコンクリート橋の上を越流し、川は濁流となって流れた。西谷村当局は危険を感じ、直ちに住民に避難命令を出して寺に避難させたが、夜半2時頃に土砂が押し出し、そのためほとんどの民家が被害を蒙り、特に鎌谷川に近い所では砂礫が厚く堆積し家屋はほとんど埋没した。

ほぼ同じ時刻に木落谷も土石流が発生し、笹生川に向かって開けた扇状地に砂礫を氾濫させ、2~3戸が砂礫の中に埋没した。

そうした山津波のあおりをくった中島集落では、翌15日も雨が降り続き、午前8時頃、コアゾ谷の源頭部が崩壊し、そのため真名川を堰き止めてダムアップし、その後ダムが決壊、流れが一気に下流1kmのところにある上笹又の集落を襲って家屋を流失・埋没させた。

昭和40年11月撮影の空中写真によると、笹生川流域には崩壊地が高密度に分布しているが、氾濫した鎌谷川流域にはこの時の崩壊地は少なく、崩壊跡地が多い。したがって、中島集落に氾濫した土砂は過去の崩壊地によって河道へ供給され堆積していた土砂が、豪雨による洪水流で浸食され流下したものと考えられる。

中島集落の東部は木落谷からの氾濫土砂によって埋没した。木落谷とコアゾ谷は源頭部に崩壊地が認められる。これらの谷は勾配が急であるため、崩壊土砂が土石流化して一気に溪口まで流下したものと考えられる。沖積錐は土石流が溪口に堆積して形成された地形であるため、沖積錐上は元々土砂災害の危険地域である。笹生川流域には他にも崩壊が数多く発生した区域や溪口の土砂氾濫痕跡が多く認められる。中島集落付近には人家等の保全対象が多数分布していたため、大きな物的被害を伴う災害となった。

笹生川・真名川沿いおよび雲川左岸の家屋は、支谷からの土砂氾濫ではなく、本川の増水によって流失した。中島発電所へは大量の土砂が流入したが、これは本川が増水したところへ背後に大小屋谷から土砂が流下したためと考えられる。

&lt;つづく&gt;

出典：越美山系災害史（原文）

発行：越美山系砂防工事事務所 平成10年10月

土砂を取り除く作業は  
数ヶ月かかった中島集落の中心を  
土石流が流れ壊滅状態に陥った

## 根尾の夏 山も驚く花火の音&amp;山も聞き入るオカリナの音色

根尾盆踊り花火大会が、8月15日に樽見鉄道樽見駅前のおすすみふれあいプラザで催されました。会場では神輿つり、盆踊りなどで終日賑わいを見せていました。

夜には花火が打ち上がり、その轟音は根尾の山々に山びことなって響くほどの迫力でした。

山を背景に際立つ多彩な花火  
(提供:本巢市)

8月22日に本巢市根尾のうすずみ公園にて、宗次郎淡墨桜コンサートが開かれました。オカリナ生活40周年の宗次郎氏、このコンサートも今年で23回を数え、根尾の夏の風物詩となっています。

優しく響くオカリナの音色が、根尾の山々に染み渡る一夜でした。

根尾中の生徒さんとの  
共演も恒例 (提供:本巢市)